

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100222		
法人名	社会福祉法人 ひかりの里		
事業所名	めだかの学校 千塚公園西		
所在地	甲府市千塚3丁目9-31		
自己評価作成日	平成26年11月12日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大通りから少し入った所にあるホームの為、昼夜ともに静かな環境で過ごしやすく周りには畑や田んぼで農作業をする地域住民の姿や、登下校する小学生の姿がある。近所には歩いて行ける距離に公園や店がある為より家庭に近い支援ができる環境である。ホームの敷地内には畑や庭があり野菜作りや花の手入れ等利用者、利用者家族、地域住民と一緒にしている。また施設の行事にはご家族にも参加して頂き準備から実施まで一緒に行っている。またご家族には毎月ホームでの行事や生活の様子を「千塚ふれあいより」として郵送をしている。地域との関わりは地域行事への積極的参加、自主的な地域清掃の実施、ボランティアの受け入れを行い交流を図っている。ホームの庭に地域の方が植えてくれた花が咲いており、花を見ることが利用者の楽しみの一つとなっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は大通りから少し入った閑静な住宅街の一角で、落ち着いた環境にある。建物の前庭は日本庭園で心休まる眺めである。地域との交流も多く、ボランティアや地域住民に温かく支えられた事業所で、職員は理念を基に、朝、昼礼で日々変わる利用者の状況を確認し合っている。昼礼時は倫理研究所発行の「職場の教養」を一日一項目ずつのテーマを全職員で唱和し、一人一人の利用者に「自宅と思い、安心して暮らして行けるように」とその人の安心を考え支援している。温かく寄り添う職員に支えられ利用者は、明るく穏やかな日々を過ごされている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成27年2月20日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 めだかの学校 千塚公園西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳を大切にし、その人がその人らしく安心して生活出来るよう、全職員で理念を念頭に置き実施につなげている。朝礼や会議等で職員に周知徹底をし、地域に開かれた施設作りに全員で取り組んでいる。	尊厳を大切にし、その人がその人らしく安心して生活出来るよう、全職員で理念を念頭に置き実施につなげている。朝礼や会議等で職員に周知徹底をし、地域に開かれた施設作りに全員で取り組んでいる。	理念は事業所内に掲示してある。朝礼、昼礼時、利用者の状態変化や支援を理念の基に振り返り、全職員で共有、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	自治会加入し回覧板等で行事の情報を頂き行事への積極的参加、地域ボランティアの受入れを行い交流を図っている。地域の床屋やお店の利用等資源活用もやっている。定期的に地域住民が庭の手入れを実施してくれる。	自治会加入し回覧板等で行事の情報を頂き行事への積極的参加、地域ボランティアの受入れを行い交流を図っている。地域の床屋やお店の利用等資源活用もやっている。定期的に地域住民が庭の手入れを実施してくれる。	回覧板や運営推進会議などで情報を得て、運動会や盆踊りなど地域行事には積極的に参加している。庭の手入れ、工作、歌会など年間を通じてボランティアの訪問がある。月1回職員と利用者が地域清掃を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に1度自主的な地域清掃の日を設け、利用者と一緒に近所の清掃活動を行っている。また運営推進会議の場では認知症の方に対する理解や共存がこの地域で住民の理解の下生活ができるよう協力を依頼している。	月に1度自主的な地域清掃の日を設け、利用者と一緒に近所の清掃活動を行っている。また運営推進会議の場では認知症の方に対する理解や共存がこの地域で住民の理解の下生活ができるよう協力を依頼している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状や実施行事の報告、外部評価の結果報告や災害時の対応など課題としてあげ、意見を頂いている。ご家族にも積極的な意見を言ってもらえるように全家族に案内を送付して、会議への参加をお願いしている。	利用者の現状や実施行事の報告、外部評価の結果報告や災害時の対応など課題としてあげ、意見を頂いている。ご家族にも積極的な意見を言ってもらえるように全家族に案内を送付して、会議への参加をお願いしている。	会議では事業所からの報告、相談をして参加者より助言や指導を受けている。事業所で始めた地域の清掃活動は住民も参加する、に発展した。会議を通し災害対策、庭の手入れなど地域からの協力が得られる様になった	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	対応困難事例や制度、人員基準等不明な点は保険者へ連絡をとりアドバイスを頂いている。また、地域包括支援センターには運営推進会議に出席してもらい意見やアドバイス、情報提供をして頂いている。	対応困難事例や制度、人員基準等不明な点は保険者へ連絡をとりアドバイスを頂いている。また、地域包括支援センターには運営推進会議に出席してもらい意見やアドバイス、情報提供をして頂いている。	介護保険課、地域包括センターに困難事例、制度基準、等の相談をして指導やアドバイスを受けている。市主催の認知症サポーター研修に参加してアドバイザーになる等、良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束に対して正しく理解をし、どういった行為が身体拘束にあたるのか研修や会議などで職員に対して周知徹底をしている。参考資料や情報なども随時回覧等で回し、各スタッフに身体拘束の意識付けをしている。	全職員が身体拘束に対して正しく理解をし、どういった行為が身体拘束にあたるのか研修や会議などで職員に対して周知徹底をしている。参考資料や情報なども随時回覧等で回し、各スタッフに身体拘束の意識付けをしている。	事業所で月1回、法人全体で年1回研修会を行い、全職員が理解している。緊急時、強い言葉が出た際は職員同士で注意し合う。精神的に不安定な利用者は、24時間のリズムシートで医師に相談する時もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の尊厳を大切に、身体的虐待はもろんるの事、言葉の暴力やネグレクトについても注意をするよう職員に促している。また虐待についての研修も開催し、知識、虐待を行わない為のスタッフの協力、連携体制を徹底している。	利用者の尊厳を大切に、身体的虐待はもろんるの事、言葉の暴力やネグレクトについても注意をするよう職員に促している。また虐待についての研修も開催し、知識、虐待を行わない為のスタッフの協力、連携体制を徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を利用している方はいないが、今後の対応として日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ必要があると感じるため、勉強会や研修などに参加する機会を持ち知識を深めていく。	現在は成年後見制度を利用している方はいないが、今後の対応として日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ必要があると感じるため、勉強会や研修などに参加する機会を持ち知識を深めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書をもとに苦情解決窓口の説明や金銭管理、その他の必要事項を利用者、家族等に出来る限り解りやすく説明を行っている。入所にあたっての疑問点や不安な点などについても必ず確認を行っている。	契約書、重要事項説明書をもとに苦情解決窓口の説明や金銭管理、その他の必要事項を利用者、家族等に出来る限り解りやすく説明を行っている。入所にあたっての疑問点や不安な点などについても必ず確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場や面会時の会話等利用者やご家族が出来る限り意見や要望などを言いやすい環境作りを行い、要望があった際は反映できるように努力をしている。また、意見箱の設置も行っている。	運営推進会議の場や面会時の会話等利用者やご家族が出来る限り意見や要望などを言いやすい環境作りを行い、要望があった際は反映できるように努力をしている。また、意見箱の設置も行っている。	面会、運営推進会議、行事等の際に家族の意見や要望を聞いている。職員の名前が判らないので判るようにしてほしい。外食や外出について等の意見があり、対応に心掛けている。意見箱への投書は少ない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議や業務の中で手すりの設置や行事の実施等要望を反映させている。勤務時間や業務内容に関しても改善点や提案など話しやすい環境作りを努めている。半年に1度個別面談の時間を設けて意見を聞いている。	月に1回の職員会議や業務の中で手すりの設置や行事の実施等要望を反映させている。勤務時間や業務内容に関しても改善点や提案など話しやすい環境作りを努めている。半年に1度個別面談の時間を設けて意見を聞いている。	月1回の定例会議、ユニット会議、半期に1度の管理者との面談時に意見や要望を出している。意見は言い易く、物品購入、行事について等多くの意見、提案が取り入れられ、風呂場に呼出しボタンの設置がされた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	各スタッフの休日や勤務時間の希望などを考慮し勤務表を作成している。昇給についても能力や資格の取得、やる気に応じて行っている。スタッフが働きやすい環境づくりに管理者はじめ各スタッフで取り組んでいる。	各スタッフの休日や勤務時間の希望などを考慮し勤務表を作成している。昇給についても能力や資格の取得、やる気に応じて行っている。スタッフが働きやすい環境づくりに管理者はじめ各スタッフで取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では月1回の職員研修と年6回の内部研修を開催。事業所でも年間5回の勉強会を実施し、技術や知識が習得できるよう機会を設けている。業務内のOJTを行い技術向上を支援している。外部研修も参加してもらっている。	法人では月1回の職員研修と年6回の内部研修を開催。事業所でも年間5回の勉強会を実施し、技術や知識が習得できるよう機会を設けている。業務内のOJTを行い技術向上を支援している。外部研修も参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設からの見学や研修の受け入れ等を行い相互に質の向上を目指して取り組んでいる。また法人内の他事業所とも見学、交流を相互に行っている。地域包括支援センターを通じて他事業所の取り組みや情報提供も頂いている。	他施設からの見学や研修の受け入れ等を行い相互に質の向上を目指して取り組んでいる。また法人内の他事業所とも見学、交流を相互に行っている。地域包括支援センターを通じて他事業所の取り組みや情報提供も頂いている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との信頼関係を構築した上で積極的に関わりを持ちニーズの把握に努めている。ご家族にも協力してもらい、過去の習慣等の情報を頂き、個別対応している。生活の中で見えてくる隠れたニーズも見逃さない様になっている。	本人との信頼関係を構築した上で積極的に関わりを持ちニーズの把握に努めている。ご家族にも協力してもらい、過去の習慣等の情報を頂き、個別対応している。生活の中で見えてくる隠れたニーズも見逃さない様になっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談から入所に対する不安や要望などを聞き介護に反映している。入所後も面会や来訪の際など関わりを持っている。また月に1度事業所便りや近況報告を兼ねた直筆の手紙を郵送している。	入所前の面談から入所に対する不安や要望などを聞き介護に反映している。入所後も面会や来訪の際など関わりを持っている。また月に1度事業所便りや近況報告を兼ねた直筆の手紙を郵送している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時には本人とご家族の主訴は何かを見極め、本人がどういった生活を送りたいか、家族がどういった生活を送ってほしいかを聞き、要望や思いに沿えるよう努めている。また他事業所のサービスも紹介している。	サービス開始時には本人とご家族の主訴は何かを見極め、本人がどういった生活を送りたいか、家族がどういった生活を送ってほしいかを聞き、要望や思いに沿えるよう努めている。また他事業所のサービスも紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	少しでも家庭での生活に近づけられるよう、家事活動や軽作業は積極的に行ってもらっている。料理や片付け、洗濯や掃除まで出来る範囲で行ってもらい、認知症があろうとも人として当たり前で共存できるように支援している。	少しでも家庭での生活に近づけられるよう、家事活動や軽作業は積極的に行ってもらっている。料理や片付け、洗濯や掃除まで出来る範囲で行ってもらい、認知症があろうとも人として当たり前で共存できるように支援している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の安定した生活は家族の支えや協力を得なければ実現しないという事を家族に伝え、面会や行事への参加、運営推進会議への出席等、関わりを多く持ち協力を依頼している。施設の美化作業も協力してもらっている。	利用者の安定した生活は家族の支えや協力を得なければ実現しないという事を家族に伝え、面会や行事への参加、運営推進会議への出席等、関わりを多く持ち協力を依頼している。施設の美化作業も協力してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から通っていた美容院や病院等の利用を家族に依頼したり、家の事が心配な方はスタッフと一緒に自宅の様子を見に行ったりと個別に馴染みの場所等の関係が寸断されてしまわないように個別で支援している。	以前から通っていた美容院や病院等の利用を家族に依頼したり、家の事が心配な方はスタッフと一緒に自宅の様子を見に行ったりと個別に馴染みの場所等の関係が寸断されてしまわないように個別で支援している。	美容院、昔の仲間との無尽会、墓参りに出掛けたり、友人知人が来訪する利用者もいる。手紙、年賀状書きの手伝い等、家族の協力も得ながら馴染みの関係継続を支援している。状況により職員が送迎や同行する時もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や行事等を通じ利用者同士の会話が増える様職員がパイプ役となり支援している利用者が孤立しないようグループ外出等個々が楽しめる行事を企画。フロアや居室で利用者同士が会話できる環境整備を行っている。	日常生活や行事等を通じ利用者同士の会話が増える様職員がパイプ役となり支援している利用者が孤立しないようグループ外出等個々が楽しめる行事を企画。フロアや居室で利用者同士が会話できる環境整備を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により契約解除になった場合でも、希望があれば退院後の行先と一緒に探し、利用者利用者家族が困らないように支援をしている。また、いかなる場合の退所であっても随時相談を受けている事を退所時に必ず伝えている。	入院により契約解除になった場合でも、希望があれば退院後の行先と一緒に探し、利用者利用者家族が困らないように支援をしている。また、いかなる場合の退所であっても随時相談を受けている事を退所時に必ず伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどのような生活を送りたいか希望を聞き、生活歴やバックグラウンドの把握、今現在の本人の思いや意思を出来る限り汲みとる事が出来る様関わりを持っている。何事にも利用者本位の考え方のもと支援にあたっている。	本人がどのような生活を送りたいか希望を聞き、生活歴やバックグラウンドの把握、今現在の本人の思いや意思を出来る限り汲みとる事が出来る様関わりを持っている。何事にも利用者本位の考え方のもと支援にあたっている。	個々の思いや希望を聞いている。思いを言えない利用者は、家族に確認している。日常的にさまざまな状態ではあるが、本人の心に添うように努め、支援している。食べ物や衣類について、外出の希望等が出され、対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴や生活の中で見えてくるその人の特性やその人らしい生活の仕方等の把握に努め、スタッフ間で共用できるように会議等で周知している。また、これまで利用していたサービス事業所から情報を頂く事もある。	入所前の生活歴や生活の中で見えてくるその人の特性やその人らしい生活の仕方等の把握に努め、スタッフ間で共用できるように会議等で周知している。また、これまで利用していたサービス事業所から情報を頂く事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リハを兼ねて家事作業は利用者と共にっており、その中でその人の有する能力や心身状態の把握に努めている。また継続して行う事でその日の状態や出来る事、出来ない事の把握ができています。	生活リハを兼ねて家事作業は利用者と共にしており、その中でその人の有する能力や心身状態の把握に努めている。また継続して行う事でその日の状態や出来る事、出来ない事の把握ができています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時に本人・家族に希望を聞きプランに反映させている。処遇会議でも個々に話し合いを行い、また処遇会議以外でも日々気づいたことは各ユニットで話し合いを持ち、計画に反映できるように努めている。	計画作成時に本人・家族に希望を聞きプランに反映させている。処遇会議でも個々に話し合いを行い、また処遇会議以外でも日々気づいたことは各ユニットで話し合いを持ち、計画に反映できるように努めている。	初期計画は入居前の情報を家族、本人から聞き取り、計画書を作成する。1~3カ月で見直し、計画を修正する。状態変化時は必要に応じ、随時計画を見直し修正している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子やケアについて、毎日個別の記録に残し、情報共有できるように工夫している。処遇会議の内容を含め、現場からの声を大切に、その人にとっての最善の方法や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の日々の様子やケアについて、毎日個別の記録に残し、情報共有できるように工夫している。処遇会議の内容を含め、現場からの声を大切に、その人にとっての最善の方法や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に抱えているニーズが異なる為、まずはニーズの把握に努め、事業所でできる範囲のサービスは臨機応変に対応している。受診介助の代行や個別の買い物等、その時々生じる個別のニーズに対して都度対応している。	個別に抱えているニーズが異なる為、まずはニーズの把握に努め、事業所でできる範囲のサービスは臨機応変に対応している。受診介助の代行や個別の買い物等、その時々生じる個別のニーズに対して都度対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人の地域資源を把握し、入所する事により地域との繋がりが寸断されず、継続ができるように支援している。自宅の近所付き合いや馴染みの店等出来る範囲で訪れたり、面会に来て頂いたり継続できるように支援している。	個人の地域資源を把握し、入所する事により地域との繋がりが寸断されず、継続ができるように支援している。自宅の近所付き合いや馴染みの店等出来る範囲で訪れたり、面会に来て頂いたり継続できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人、家族に今までのかかりつけ医や今後の主治医の希望等を聞いている。また、法人内にもクリニックがあることを伝え希望があった方については主治医を移行し健康管理のフォローを行っている。	入所時にご本人、家族に今までのかかりつけ医や今後の主治医の希望等を聞いている。また、法人内にもクリニックがあることを伝え希望があった方については主治医を移行し健康管理のフォローを行っている。	現在、利用者の半数が入居前のかかりつけ医を継続している。他は事業所のクリニックとなっている。受診時は口頭や書面で情報を渡し家族同行を基本としているが状況により職員も同行する場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員には利用者のちょっとした変化に気づける様日常の関りの中から利用者自身を観察する様指導している。気づいた点は随時管理者、看護師に報告・相談をし必要な場合は適切に医療が受けられるように支援している。	職員には利用者のちょっとした変化に気づける様日常の関りの中から利用者自身を観察する様指導している。気づいた点は随時管理者、看護師に報告・相談をし必要な場合は適切に医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は情報提供を病院に行い入院中は病院と連携を取り合い、退院時にもスムーズに退院できるように努めている。また、退院時には医療面だけでなく必要に応じてPTやOT等からも情報を頂き、担当者会議も行うようにしている。	利用者が入院した際は情報提供を病院に行い入院中は病院と連携を取り合い、退院時にもスムーズに退院できるように努めている。また、退院時には医療面だけでなく必要に応じてPTやOT等からも情報を頂き、担当者会議も行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族や本人の意向を聞くとともに、法人内の特養や療養型とも連携を取っている事を説明し、広い選択肢の中から方向性を決めていただけるようにしている。また終末期ケアについても希望があればグループホームで可能な限り対応は可能。	入所時に家族や本人の意向を聞くとともに、法人内の特養や療養型とも連携を取っている事を説明し、広い選択肢の中から方向性を決めていただけるようにしている。また終末期ケアについても希望があればグループホームで可能な限り対応は可能。	入居時に家族の意向を確認している。利用者が食事が摂れなくなり、寝ている時間が多く、状態が低下してきた状態の際に、再度家族の意向を確認している。夜間も往診してくれる医師がおり最近1名の看取りがあった。職員も不安の中にも落ち着いて看取る事が出来た。	1名の看取り体験から、今後も終末期や看取り支援を前向きな取り組み姿勢にある。家族、利用者は温かい職員に見守られ心から安心する事と思う。マニュアルの整備や研修を通して今後の看取り支援に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応、救急法と年間2回の研修を実施し各スタッフのスキルアップに努めている。会議でも緊急時のケースや事故発生時の対処の方法等を徹底している。また事故を未然に防ぐ為にヒヤリ・ハット記入を徹底している。	緊急時の対応、救急法と年間2回の研修を実施し各スタッフのスキルアップに努めている。会議でも緊急時のケースや事故発生時の対処の方法等を徹底している。また事故を未然に防ぐ為にヒヤリ・ハット記入を徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間6回の避難訓練を実施し、夜間想定、地震火災、管理者不在時等の訓練を行っているまた地域の方にも災害時の協力要請しており地域の避難訓練にも参加している。防災研修や水消火器を使った訓練等も実施している。	年間6回の避難訓練を実施し、夜間想定、地震火災、管理者不在時等の訓練を行っているまた地域の方にも災害時の協力要請しており地域の避難訓練にも参加している。防災研修や水消火器を使った訓練等も実施している。	事業所として年6回の訓練の他、地域の防災訓練に参加している。災害時はエレベーターが使用できなくなるため、2階の利用者は普段から階段での昇降をしてもらっている。地域住民とも見守り等の協力は確認されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりが人生の先輩であるという気持ちで、その人の人格やプライドが傷つかないように接している。また業務中でのOJTや職員研修、会議の中でも声かけや接し方等の指導を職員に対して行っている。	利用者一人ひとりが人生の先輩であるという気持ちで、その人の人格やプライドが傷つかないように接している。また業務中でのOJTや職員研修、会議の中でも声かけや接し方等の指導を職員に対して行っている。	利用者は人生の先輩として常に敬う心で接している。呼び方は姓を基本としているが、本人や、家族の希望を確認している。入居時、利用者の好む事、嫌いな事を聞いておき、嫌いな事は話題にしない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の気持ちを大切に利用者が遠慮せず話せる雰囲気作りを努め、希望を聞く際は人によって質問方法や声かけを工夫している。生活の中での選択時には自己決定できる様、してあげる介護から待つ介護を心掛けている。	個人の気持ちを大切に利用者が遠慮せず話せる雰囲気作りを努め、希望を聞く際は人によって質問方法や声かけを工夫している。生活の中での選択時には自己決定できる様、してあげる介護から待つ介護を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護するに当たり、まずその人の事をよく知る事を心がけている。その中で昔から馴染みのある事や生活のリズムを個々に把握し処遇を行っている。行事の実施も利用者に希望を聞きながら行先や内容を検討、実施している。	介護するに当たり、まずその人の事をよく知る事を心がけている。その中で昔から馴染みのある事や生活のリズムを個々に把握し処遇を行っている。行事の実施も利用者に希望を聞きながら行先や内容を検討、実施している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	本人の希望を聞きながら行事の際や外出の際にお化粧をさせて頂いている。あくまでも本人自身のおしやれが出来るように支援している。日々の身だしなみについても衣類の選択等できる範囲で自身で行ってもらっている。	本人の希望を聞きながら行事の際や外出の際にお化粧をさせて頂いている。あくまでも本人自身のおしやれが出来るように支援している。日々の身だしなみについても衣類の選択等できる範囲で自身で行ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて食事の準備や片付け等は一緒に行っている。ほうとうや太巻き作り、団子やおはぎ作り等昔ながらの料理やおやつ等も一緒に手作りしている。自由メニューやお好み外食も希望を聞きながら実施している。	利用者の能力に応じて食事の準備や片付け等は一緒に行っている。ほうとうや太巻き作り、団子やおはぎ作り等昔ながらの料理やおやつ等も一緒に手作りしている。自由メニューやお好み外食も希望を聞きながら実施している。	献立は法人の栄養士が作り、週2回自由メニューとして、利用者の希望を聞いて作る。食事作りや盛り付け、後片付けは出来る利用者が職員と一緒にしている。食材の買物は利用者と一緒に行く。全員が箸で食事をしている。職員は会話をしながら見守っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事・おやつを提供を行っている。食事量や水分量のチェックも行っておりバランスよく栄養が取れるように努めている。また体重の増減も指標の一つとしており、その時々に応じた支援を行っている。	個々の状態に合わせた食事・おやつを提供を行っている。食事量や水分量のチェックも行っておりバランスよく栄養が取れるように努めている。また体重の増減も指標の一つとしており、その時々に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず実施し、個別に介助する方や自身で実施できる方等の把握、義歯や口腔内の状態を個別に把握している。必要に応じ歯科受診の介助を行ったり口腔ケアの研修を行い清潔保持できるよう支援している。	毎食後の口腔ケアは必ず実施し、個別に介助する方や自身で実施できる方等の把握、義歯や口腔内の状態を個別に把握している。必要に応じ歯科受診の介助を行ったり口腔ケアの研修を行い清潔保持できるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを把握し、排泄チェックシートを用いて個別に誘導している。オムツやパットの使用も見直しを行い、その方にとっての排泄の自立を目指し支援している。実際にオムツから布パンツに変更できた方もいる。	個別の排泄パターンを把握し、排泄チェックシートを用いて個別に誘導している。オムツやパットの使用も見直しを行い、その方にとっての排泄の自立を目指し支援している。実際にオムツから布パンツに変更できた方もいる。	排泄チェックシートで個々のパターンを把握し、さりげなくトイレ誘導をしている。おむつから布パンツに移行できた利用者も数名いる。現在夜間のみポータブルトイレの利用者もいるが、常に排泄機能の改善を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に関してはチェックシートで個別チェックし、その方の排便のリズムの把握に努めている。出来る範囲で下剤に頼るのではなく、水分量や食事内容の改善、日中の活動量を増やす等の対応を行っている。	排便に関してはチェックシートで個別チェックし、その方の排便のリズムの把握に努めている。出来る範囲で下剤に頼るのではなく、水分量や食事内容の改善、日中の活動量を増やす等の対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はほぼ毎日実施している。出来る範囲で利用者の希望や体調を聞きながらその日の入浴者を決めている。一番風呂が良い方や最後にゆっくり入りたい方等個々に合った個別の支援を実施している。	入浴はほぼ毎日実施している。出来る範囲で利用者の希望や体調を聞きながらその日の入浴者を決めている。一番風呂が良い方や最後にゆっくり入りたい方等個々に合った個別の支援を実施している。	週2~3回の入浴を基本として利用者の希望で入浴している。状態により職員2名での介助入浴や、見守り程度で入浴できる利用者もいる。希望により同姓介助をする。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ活動量を増やし夜間の睡眠につなげられる様に努めている。また体調や状態に応じて日中の睡眠も時間を決めて行っている。眠剤を使用している方もいるがなるべく内服に頼らないで眠れるように支援していく。	日中は出来るだけ活動量を増やし夜間の睡眠につなげられる様に努めている。また体調や状態に応じて日中の睡眠も時間を決めて行っている。眠剤を使用している方もいるがなるべく内服に頼らないで眠れるように支援していく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の記録に内服薬の情報書が綴っており、副作用や用法、用量等をすぐに確認できるようにしている。また受診の際には内服による状態変化や医師の指示などを受診ノートに記入し職員全体で情報共有し把握に努めている。	個別の記録に内服薬の情報書が綴っており、副作用や用法、用量等をすぐに確認できるようにしている。また受診の際には内服による状態変化や医師の指示などを受診ノートに記入し職員全体で情報共有し把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の趣味や生活歴などを把握し、ピアノ、料理、畑仕事、編み物、日記等その人にとって楽しみとなっている事が日常生活の中で自然に出来る様支援している。また日常生活の中で気分転換としても活用している。	その人の趣味や生活歴などを把握し、ピアノ、料理、畑仕事、編み物、日記等その人にとって楽しみとなっている事が日常生活の中で自然に出来る様支援している。また日常生活の中で気分転換としても活用している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の希望によって自宅の様子を見に行ったり、個人の買い物や以前住んでいた地域に出出したりと対応している。日常生活でも散歩や買物の外出を行い、個別の外出希望にも出来る範囲で対応している。ご家族にも外出できる機会を作ってもらえるよう依頼している。	個別の希望によって自宅の様子を見に行ったり、個人の買い物や以前住んでいた地域に出出したりと対応している。日常生活でも散歩や買物の外出を行い、個別の外出希望にも出来る範囲で対応している。ご家族にも外出できる機会を作ってもらえるよう依頼している。	散歩や買い物その他、行事としてイチゴ狩りや花見など外出の機会が多い。家族の法事に職員も同行した事もある。面会の少ない利用者は本人の希望を聞いて買い物や散歩に職員と出かける機会をつくり、支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者、家族の希望にてお金を所持している方もいらっしゃる。買い物や外出時のお金を使う際は支障がない限り自身で支払いができる様に支援している。自己管理できない方に関しては施設にて小遣い管理している。	利用者、家族の希望にてお金を所持している方もいらっしゃる。買い物や外出時のお金を使う際は支障がない限り自身で支払いができる様に支援している。自己管理できない方に関しては施設にて小遣い管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては利用者の友人や家族に対し希望があった場合支援をしている。手紙も月に一度、本人に話を聞きながら家族に手紙を送っている。職員が代筆する方もいるが直筆にて書ける方は自身で書いてもらっている。	電話に関しては利用者の友人や家族に対し希望があった場合支援をしている。手紙も月に一度、本人に話を聞きながら家族に手紙を送っている。職員が代筆する方もいるが直筆にて書ける方は自身で書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作品や、季節の花、飾りをする事によって居心地良く、快適に生活が出来るように配慮している。また庭や畑を見て季節を感じてもらえる様に花や野菜を植え、いつでも外が見えるよう窓際に椅子を置いている。居室やトイレは手作りの張り紙を貼り工夫している。	利用者の作品や、季節の花、飾りをする事によって居心地良く、快適に生活が出来るように配慮している。また庭や畑を見て季節を感じてもらえる様に花や野菜を植え、いつでも外が見えるよう窓際に椅子を置いている。居室やトイレは手作りの張り紙を貼り工夫している。	玄関前のカーポートを利用して、テーブル、椅子を並べ、戸外での行事を楽しむ場になっている。玄関内廊下、居間には写真や習字、利用者の作品、また階段の踊り場には歌舞伎役者の大きなちぎり絵が飾られ、心和む場作りがされている。トイレ、風呂場も広く清潔で使い易い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファや椅子を多めに置き、利用者が自由に好きな場所で過ごしてもらえる様配置している。1階と2階のフロアをうまく使いながら一人で過ごせる場所や気の合う仲間が出来る家具の配置を行い空間作りに努めている。	フロアにソファや椅子を多めに置き、利用者が自由に好きな場所で過ごしてもらえる様配置している。1階と2階のフロアをうまく使いながら一人で過ごせる場所や気の合う仲間が出来る家具の配置を行い空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が自宅で使い慣れた馴染みの家具を持参頂くようお願いし、仏壇や筆筒、人形など持ち込まれる方もいる。また家族の写真を貼るなどしてその人にとって居心地の良い空間となりえるように配慮している。	居室には利用者が自宅で使い慣れた馴染みの家具を持参頂くようお願いし、仏壇や筆筒、人形など持ち込まれる方もいる。また家族の写真を貼るなどしてその人にとって居心地の良い空間となりえるように配慮している。	吊り戸棚、ベッド、エアコン、防災カーテンの備えが、利用者が自宅で使い慣れた筆筒や机、ハンガー、テレビ等が持ち込まれている。写真や作品を飾る等してそれぞれが自分らしい居室作りが工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内での家事や軽作業は出来る範囲で利用者と一緒に、ADLだけに目を向けるのではなくADLがどの程度出来るのかを把握し、安全の確認を行ったうえでその人なりの自立を目指して支援を行っている。	事業所内での家事や軽作業は出来る範囲で利用者と一緒に、ADLだけに目を向けるのではなくADLがどの程度出来るのかを把握し、安全の確認を行ったうえでその人なりの自立を目指して支援を行っている。		